

★今週の聖句

「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。」
ルカによる福音書 6:20

★ ねらい

- ・イエスさまは人々に向かって、「あなたがたは幸いである」、「あなたがたは祝福されている」と言われている。主は、もともと“現在形”でこのみことばを語っておられ、「今、あなたがたは幸いなのです」、「今、ダイナミックな神さまのご支配のうちに入れられている」と宣言をされているのである。

★説教作成のヒント

- ・イエスさまの宣言は、いじめ問題や不登校など、子どもたちを取りまく様々な状況にあつて、非常にインパクトのあるみことばである。主と共にある幸い、変わることはない恵み、主にあるまことの豊かさを子どもたちにじっくりと伝えたい。
- ・主と共にある幸いを、神さまの祝福をあふれるほどに与えられている私たちが、自分の中だけにとどまらないで、どのようにそれに応えようとしているかを考えさせたい。

★ 豆知識

- ・説教を作成するうえで、マタイによる福音書の「山上の説教」との比較はさげがたい。主はどこでも同じように教えられたに違いないが、ルカによる福音書では、イエスさまは人々の生活の場に近づいて教えられたことが強調されている。
- ・詩編の第1編は「いかに幸いなことか」で始まっている。「いかに幸いなことか」は、詩編全体を通してのテーマでもある。

★ 説教

イエスさまは、大切なことを神さまにお祈りをされるときには、よく山に登られます。モーセも山で神さまのお声を聞きましたが、山は神聖なところとされていました。イエスさまは夜どおし、神さまにお祈りをされて、とくに12人の弟子たちを選び「使徒」と名付けられました。それから、イエスさまは弟子たちと共に山を下りてこられました。イエスさまは人々の生活の場所に近づいてこられたのです。

イエスさまはたくさんの人たちの病気を癒されました。また、平らな所にお立ちになり、大勢の弟子とおびたしい群衆を前にしてお教えになります。イエスさまの教えを聞こうとして、遠くからもおびたしい人々がイエスさまのもとに押し寄せて来ていました。

イエスさまは「貧しい人々、幸いである。神の国はあなたがたのものである。」と語りはじめられます。イエスさまのもとに来ていた多くの人たちは、いろいろな病気に苦しんでいたり、さまざまに悩みがあったり、またとても貧しい人たちでした。イエスさまが救ってくださることを心から願っておりました。

それらの人々に対して、「あなたがたは幸いなのですよ」、「今、幸いなのです」と言われたのです。実際の人々の生活は、ほんとうに苦しくて、貧しくて、辛くて、けっして満足できるものではありませんでした。しかし、イエスさまは「あなたがたは、今、神さまから祝福されているのですよ」と宣言されるのです。イエスさまは、「あなたがたは」と親しく、心をこめて、「今、あなたがたは幸いです。神さまから祝福されています」と言ってくださいなのです。どうして、イエスさまはそのように言われるのでしょうか。

貧しいこと、悲しいこと、飢えていることが、よいことだと言っておられるのでは、決してありません。また、人生には悪いこともあれば、またよいこともあると言っておられるのでもありません。イエスさまは「貧しい人々幸いである。神の国はあなたがたのものである。」とおっしゃいました。神さまの国とは、ここ

やあそこ、といった特定の場所を指しているわけではありません。神さまのご支配のあるところ、神さまがダイナミックに働いておられるところが神の国なのです。

貧しい人たちや、悲しんでいる人たちを、イエスさまは必ず慰めてくださいます。イエスさまはいつも共にいてくださり、みことばを語りかけ、励ましてくださるのです。イエスさまは貧しい人、泣いている人、つらい思いをしている人を捜し出して、「わたしがいるも一緒にいますよ」と語りかけてくださいます。まさにこれこそ、神さまのご支配のうちにおらせていただくことあり、今、まさに神さまがダイナミックにわたしたちに働いていてくださるのです。

ですからイエスさまは「貧しい人々は幸いである。神の国はあなたがたのものである。」とおっしゃるのです。そしてわたしたちも、今わたしたちの近くで、泣いている人たちや苦しんでいる人たちを、慰め、励ますことができる者とされますように、イエスさまに祈りつつ従ってまいりましょう。

★分級への展開

さんびしよう

□ 1 1 9 番

□ 改訂版 5 3 番

やってみよう

8枚のカードを用意します。

ルカ福音書にある4つの幸い、4つの不幸を8枚のカードに書いていきます。

幸いと不幸はそれぞれ相對するものがありますので、それを表裏に張って4枚のカードにします。

そのときに子供たちと話しながらやってみましょう。

「貧しい人々は幸いである」の對になっているものは何かをさがしていきます。

4枚のカードになったところで、それぞれ裏表を見ながら何が大切なことかを話し合ひましょう。

はなそう

- ・ 4つの幸いとはどんなことですか
- ・ 4つの不幸とはどんなことですか
- ・ どの幸いと不幸が對になっていますか。

★今週の聖句

「祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。」
ルカによる福音書 9:29

★ ねらい

- ・イエスさまがご自身の死と復活を予告された後に、この主の変容の出来事があったことはとても大切なことである。つまりまさに主のご受難の中に隠された栄光があることを示している。それを象徴しているのが「最期」という言葉であり、もともとの意味は「旅立ち・出発」である。主は、私たちに赦しと救いを与えてくださるために、まさに出発をされようとしていることを、今日のみことばから聴きたい。

★説教作成のヒント

- ・弟子たちは「ひどく眠かったが、じっとこらえていると」と書かれている。この「眠たさ」は、私たちにあってさまざまな心配や悩みごとであり、主から私たちを離れさせようとする誘惑でもある。主は「じっとこらえている」、「じっと目覚め続けている」ように私たちに求められる。「これに聞け」とあるように、イエスさまのみことばに聞き続ける者でありたい。

★ 豆知識

- ・マルコによる福音書では、並行箇所「六日の後」となっているのは、ギリシャ・ローマ的な日の数え方である。このルカによる福音書では、「八日ほどたったとき」となっているのは、ユダヤ的な日の数え方、つまり「日没から日没まで」という数え方にしがっているものと思われる。
- ・「最期」をあらわすギリシャ語は「エキソドス」で、旅立ち（出発）を意味するが、よりよい状態への脱出であり解放であって、出エジプトを指して用いられてきた言葉でもある。主は「新しい出エジプト」を導かれる。

★ 説教

イエスさまは、ご自身が長老や祭司長、律法学者たちによって多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することを、ひそかに弟子たちに予告をされました。そのお話しをされてからおよそ一週間後に、イエスさまは弟子たちの中から、ペトロ、ヨハネ、ヤコブの三人だけを連れて、お祈りをするために山に登られたのです。日本とは違って、昼間はとても暑いのです。おそらく日が沈んでから山に登られたのでしょう。「イエスは祈るために山に行き、神に祈って夜を明かされた」（ルカ 6:12）とありますように、イエスさまはたいせつな時に、お祈りをされるために山に登られました。イエスさまがお祈りをされるのは、父なる神さまとお話しをされるためでした。神さまのお考えをはずかにお聞きになるためでした。

イエスさまがお祈りをしておられるうちに、イエスさまのお顔の様子が変わり、着ておられる服が真っ白に輝きました。聖書のほかのところでは、イエスさまのお顔は太陽のように輝いたと書かれています。夜の暗闇の中に輝きました。イエスさまは、ご自分が父なる神さまの御子であることを、その輝く光によって弟子たちにお示しになられたのです。

するとそこに、モーセとエリヤの二人がイエスさまと語り合っていました。モーセはエジプトで奴隷生活をしていたイスラエルの民を救い出し、神さまから「十戒」を授けられた人です。またエリヤは、神さまのお言葉を伝える預言者の代表ともいべき人でした。モーセとエリヤと語り合っておられたことは、イエスさまこそ、聖書に書き記されていた「救い主」であることをあらわしているのです。

イエスさまはその二人に、ご自身がエルサレムで遂げようとしておられる「最期」について話しておられました。「最期」とは、ふつう死ぬ時のことを言いますが、この言葉にはもう一つの大切な意味があるのです。

それはももとの言葉で、「旅立ち・出発」を表しています。これからイエスさまは、エルサレムで十字架におかかりになるために向かわれます。しかし、それは、私たちすべての人の身代りとして死なれるためでした。私たちすべての人に赦しと救いを与えてくださるための出発でした。そして父なる神さまのもとに行かれる旅立ちです。イエスさまこそ、父なる神さまのお考えをご自分の使命として、神さまに忠実に従われたのです。

「ペトロと仲間は、ひどく眠かったが、しっとこらえていると」と書かれています。三人の弟子たちは、とても眠くて、眠くて、今にも両方のまぶたが閉じようとしていましたが、何とかこらえていました。この「眠たさ」とは、私たちにとって何を示しているのでしょうか。それは、私たちの毎日の生活の中で、さまざまな心配や悩み事にわずらわされている姿なのでしょう。そのようなときに、弟子たちは雲の中から、神さまのお声が聞きました。「これはわたしの子、選ばれた者、これに聞け」。神さまは私たちに、イエスさまに聞き従いなさいと言われるのです。毎週日曜日の礼拝で、お友だちと一緒に、イエスさまのお言葉を聞き続けてまいりましょう。

★分級への展開

さんびしよう

1 番

改訂版 8 番

やってみよう

イエスさまが白く輝かれた山を再現してみよう。

ペープサートで、登場人物をつくります。表と裏に絵が描けるように。

イエスさま 表：普通の姿 裏：真っ白に輝く姿

ペトロ 表：寝ている 裏：驚いている

ヤコブ 表：寝ている 裏：驚いている

ヨハネ 表：寝ている 裏：驚いている

モーセ 表：笑顔 裏：十戒を持った姿

エリヤ 表：笑顔 裏：預言の書を持った姿

ペープサートをつかって、その場を再現してみましよう。ペトロさんが言った言葉はなにだったでしょうか。

また、最後に神様が告げられた言葉へと話しがつながるようにしましょう。

はなそう

- ・なぜイエス様は白く輝かれたのだろうか
- ・モーセとエリヤさんと何を話していたのだろうか。
- ・お弟子さんたちはどうして寝ていたのだろうか。
- ・ルカによる福音書には神様の声は何回聞こえてくるだろう。それはいつ？どこにある？

★今週の聖句

「あなたの神である主を試してはならない」

ルカによる福音書 4:12

★ ねらい

- ・イエスさまは洗礼のときに、聖霊が鳩の形をとってご自身の上に降ってくるのをご覧になった。その聖霊が主を荒野に導くが、主が誘惑を受けられるとき、いつも共に聖霊がとどまっていた。主は悪魔の誘惑を申命記のみことばを用いて退けられる。私たちがどのような試練に出会うときも、主が共にその試練を担っていてくださっていることを感謝したい。

★説教作成のヒント

- ・主が会われた試練は、ここに記されている三つの誘惑だけに限られるものではない。それはむしろ主のご生涯の全てを表しているとも言える。13節で「時が来るまでイエスを離れた」と書かれているように、悪魔が離れたのは一時的でしかなく、やがて主の受難の出来事として巻き返してくる。それらの全ての試練（誘惑）を主が私たちの救いのためにご自身が担って下さったことを感謝のうちに覚えたい。

★ 豆知識

- ・マタイによる福音書ではユダヤ人への配慮のためか、出エジプト記に示されたイスラエルの民が受けた誘惑と同じ順序になっているが、ルカによる福音書ではエルサレムを中心にする傾向のためか、第二と第三の誘惑の順序が逆になっている。
- ・申命記は、約束の地を目前にしたイスラエルの民に、モーセがそれまでのさまざまな神の戒めをまとめて与えた書である。したがって主が用いられたこれらのみことばは、イスラエルの民がよく知っていたものである。

★ 説教

イエスさまは洗礼を受け祈っておられると、天が開け、聖霊が鳩のように目に見える姿でご自身の上に降ってくるのをご覧になり、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という神さまのお声を聞かれました。イエスさまは「神さまの子」としてのご自分の活動を始められます。まずイエスさまは、その聖霊によって荒野へと導かれました。そこで悪魔から40日間いろいろな誘惑や試練をお受けになるのですが、聖霊はいつもイエスさまと共におられ、イエスさまを守っておられました。

イエスさまは40日間断食をして、何も食べておられませんから、おなかがすいて荒野の転がっている石ですらパンに見えたかも知れません。そこで悪魔は、「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ」、イエスさまを誘惑します。しかしイエスさまは、「神さまの子」としての力を、ご自分自身のためには決してお使いになりません。そして聖書のみことばを用いて、「人はパンだけで生きるものではない」とお答えになりました。このみことばには続きがあります。そこには「人は主の口から出るすべての言葉によって生きる」と書かれています。私たちが生かされているのはパンだけではなく、神さまのみことばによって生きるものとされているのだ、とイエスさまははっきりと述べられて、悪魔の誘惑をしりぞけられたのです。

次に悪魔は、「もしわたしを拝むなら、この国々の一切の権力と繁栄を与えよう」と誘惑しました。およそ三年後にイエスさまが十字架につかれて、すべての人たちを救おうとするのが、父なる神さまのご計画でした。「神さまの子」としての苦しみの道を歩まれるのか、それとも世の富や繁栄のうちに安易な道を歩まれるのか、それを選ぶように悪魔はイエスさまに迫ったのです。私たちは、まことの神さまにお仕えるのか、それ以外のものに仕えるのか、二つに一つの道しかありません。イエスさまはやはり、「あなたの神である主

を拝み、ただ主に仕えよ」、という聖書のみことばを用いて答えられました。

最後に悪魔は、エルサレムの神殿の屋根の端にイエスさまを立たせて、「神の子ならここから飛び降りたらどうだ」と迫りました。神さまが天使たちを用いて、きっと支えてくれるはずだということです。神さまを試そうとする誘惑です。神さまを試そうとすることは決してしてはならないことです。それは神さまを神さまとも思っていないことなのです。神さまは試す方ではなくて、信頼すべきお方なのです。イエスさまはこの誘惑にも、「あなたの神である主を試してはならない」、と聖書のみことばを用いてお答えになり、悪魔をしりぞけられました。

わたしたちの日ごろ、自分のプライドや誇りが傷つけられたり、自分の意見や気まますを通したいという思いにかられることがあります。イエスさまは私たちの心の内をすべてご存知ですから、そのようなとき、実はイエスさまご自身が私たちと共にいて、そのような誘惑や試練に対して、耐えられるように共に戦ってくださるのです。ですから、イエスさまにただひたすら信頼をしまいましょう。これからイースター（復活祭）までの季節は、つつしみの40日間を迎えています。イエスさまのみことばをしっかりと聞いて過ごしてまいりましょう。

★分級への展開

さんびしよう

□36番

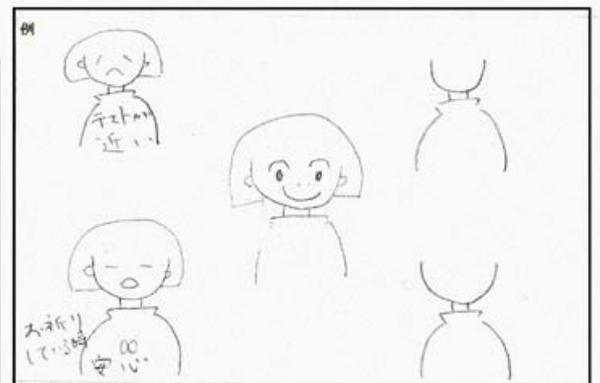
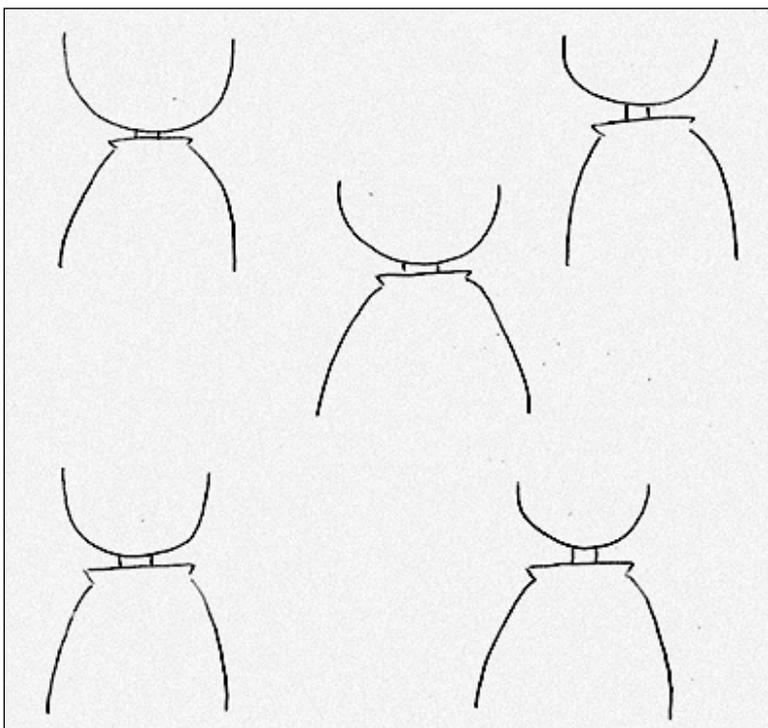
□改訂版51番

やってみよう・はなそう

【自分の中のいろんな自分】

最近の自分をふり返ってみましょう。イライラしている自分やお友達に優しくしている自分。おいしいものを食べて、ニコニコしている自分。いじわるをしてしまって、あとで後悔をしてしまうこともあるかもしれません。

1人の中には、いろんな自分があります。どんな自分がいたのか、ふり返りながら、どんな時でもどんな自分がいる時でも神様がそばにいてくださることを感じましょう。



感想を自由に書いてみよう
* 2~3週間後に見直してみるのもいいでしょう

★今週の聖句

「彼は、『ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください』と叫んだ。」
ルカによる福音書 18:38

★ ねらい

- ・イエスさまは「見えない者は見えるようになり、見える者は見えないようになる」（ヨハネ9:39）と言われる。私たちは見えている、わかっていると言いながら、実はそうでないことが多い。主の十字架の出来事の意味がほんとうに分かるように、つまり「見える」ようにと願いつつ、「主よ、憐れんでください（キリエ、エレイソン）」という心の叫びをあげ続ける者でありたい。

★説教作成のヒント

- ・今日の福音書の前半部分で、主の受難の予告が三度目にもかかわらず、十二人の弟子たちは「イエスの言われたことが理解できなかったのである」と記されている。この弟子たちとの対比で、目の見えない人を主が癒されたみことばを聴く必要がある。主の十字架の出来事が、まさに自分自身にかかわることとして示されていること、かつて洗礼準備の期間であった四旬節に聴くみことばとして与えられている。

★ 豆知識

- ・ルカによる福音書では、上にも記したように、聞いてもわからなかった弟子たちと対照的に、目の不自由な人（マルコの並行箇所では、ティマイの子バルティマイ）を主が癒された記事を通して、信仰とは何か、見えることとは何か、を主が私たちに教えておられる。主の「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救った」というお言葉は、洗礼の準備を備えられている者にとって大きな慰めである。

★ 説教

イエスさまはエルサレムに向かって上っていかれます。そこでイエスさまは「異邦人に引き渡されて、侮辱され、乱暴な仕打ちを受け、唾をかけられる。彼らは人の子を、鞭打ってから殺す。そして、人の子は三日目に復活する」と、ご自身の身にこれから起こることを、弟子たちに予告をなさいました。

イエスさまはエリコの町に近づかれました。イエスさまが十字架にお架かりになるエルサレムは、エリコからもうすぐ近くのところです。そのとき、ある目の不自由な人が、道ばたに座って物乞いをしていました。ほかの聖書のところでは、この人の名前はバルティマイという人でした。彼が座っていると、大勢の人たちの声の騒いでいる声が聞こえます。「ナザレのイエスのお通りだ」。「イエスさまのお通りだ」。

あのイエスさまなら、きっと目を見えるようにしてくださる。そう信じたバルティマイは居ても立ってもおれずに、「ダビデの子イエスよ、わたしを憐れんでください」と大きな声で叫ぶのです。目の不自由な彼にとって、その声がイエスさまの耳に届くようにという思いで、ただ必死に叫んだのです。「ダビデの子」とはいつの日か来られる救い主のことをあらわしています。イエスさまのもとに先に行こうとしていた人たちは、バルティマイを黙らせようとして叱りつけます。しかしそれでもなお、彼はますます大きな声で、イエスさまこそ救い主であると信じて、「ダビデの子よ、わたしを憐れんでください」と叫び続けたのでした。

バルティマイの声はイエスさまに届きました。いやすでに、イエスさまは彼の心の内をすべてご存知でした。イエスさまはバルティマイを、自分のそばに連れて来るようにお命じになりました。イエスさまが彼を呼ばれたのです。一日中、道端に座って物乞いをしていたバルティマイには、イエスさまにお願いしたいことがたくさんあったことでしょう。しかし彼はただ一つのこと、「見えるようになること」を願いました。イエスさまは彼に答えて、「見えるようになれ」と宣言してくださり、「あなたの信仰があなたを救った」、とも言って下さいました。バルティマイはたちまち目が見えるようになり、イエスさまに従っていったのです。

このバルティマイの物語は、今日の福音書の前半に書かれているように、イエスさまの弟子たちの無理解と対照的に描かれています。12人の弟子たちは、イエスさまから「あなたがたのしているものを見る目は幸いだ」(ルカ 10:23)と言われていましたが、イエスさまの身にこれから起ころうとすることを三度も予告されたのに、それを理解することができませんでした。しかし、イエスさまが復活をされたときに、弟子たちの心の目が開かれて、イエスさまとはどういうお方であったのか、何のために来てくださったのかを、やっと理解をすることができたのです。

イエスさまは、素直に「わたしを憐れんでください」と願う人に、救いの手をさしのべて下さいます。ですから、イエスさまのみことばを信じて、私たちも「今見なくても信じて」(Iペトロ 1:8) 喜ぶことができます。

★分級への展開

さんびしよう

□ 57番

□ 改訂版 27番

やってみよう

*広い場所や外でやるプログラムです

*目が見えなくても、仲間を信じて行動することを体験してみましょう。

(本来のネイチャーゲームの目的とははずれます)

【コウモリとガ】

- ① まず、輪を作りましょう。(10人程度)
- ② その中で、コウモリ1名とガ2~4名決めます。
- ③ コウモリとガは、輪の中に入ります。この時、コウモリは目隠しをします。
- ④ 周りの輪の人は手をつないで壁を作ります。
- ⑤ コウモリは「バット」と叫び、ガはそれにこたえて「モス」と叫びます。コウモリは「モス」の声をたよりにガを捕まえます。タッチされたガは、壁になり、何回か交替します。

【目隠しいもむし】

- ① 5人くらいのグループを作ります
 - ② 1人以外は、目隠しをします。
 - ③ 1列にならび、前の人の肩に手をあて“いもむし”になります。
 - ④ 先頭に目隠しをしていない人が立ち、手を取り探検にでかけましょう。
- *列が乱れないように前や後ろの人とペースを合わせて歩きましょう。

はなそう

今日の説教にあるように、バルティマイさんは必死にイエス様に対して叫んでいました。

目が見えないので、どこにいるかもわからなかったことでしょう。

気付いてくれなかったら？無視されたら？とちょっと不安はあったかもしれないけれど、信じて一生懸命叫びました。